

泥棒は戸建てを選ぶ？

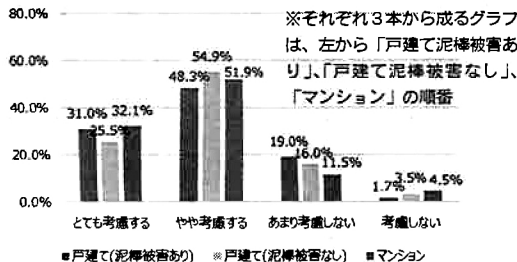
侵入経路、窓と玄関で8割

不動産関連の比較査定サイト「スマイスター」を運営するシースタイル

(東京都中央区、川合大無社長)は、春の防犯運動に合わせて「我が家の防犯対策」について調査した。

同サイトを利用した家

自宅選びに防犯は考慮しますか？ (N=751)



「ない」が97・4%。戸建てが泥棒の被害を受けやすいことがわかった。

戸建ての侵入経路は、「窓」(56・9%)からが半数を超え、次いで「玄関」(22・4%)だった。この2カ所からの侵入で8割ほどを占めた。ほかに「勝手口」(5・2%)や「風呂場」「ベランダ」「不明」

がそれぞれ3・4%、「その他」が5・2%だった。

防犯に関する不安を聞くと、戸建ての場合、泥棒被害を受けた人は65・6%が心配していると回答したのに対し、被害のない人は60・9%が心配していない。マンションは71・8%の人が心配していなかった。経験や自宅の種類で防犯に対する不安度が異なっている。

戸建てを見ると、泥棒被害なしの場合、防犯対策を「していない」(54・2%)が半数を超えている。半面、被害を受けた人の約7割が「(対策を)している」(69・0%)と被害の有無で対策に差があることが浮き彫り。マンションも44・9%

%が対策を怠っている。

防犯対策では、戸建てで最も多かった回答が「戸締りの強化」(泥棒被害あり62・5%、泥棒被害なし65・4%)だった。「近所さんと仲良くする」(被害あり60・0%、被害なし54・5%)、「在宅時でも玄関を施錠する」(被害あり52・5%、被害なし56・5%)などと続いた。

マンションの防犯対策は「在宅時でも玄関を施錠する」(62・8%)が最多だった。次いで「モニター付きインターホン設置の物件を選んだ」(57・0%)、「防犯カメラ設置の物件を選んだ」(46・5%)などが続いた。購入後に玄関や窓を二重ロックにしたり、強化ガラスや網入りガラスにした回答もあった。

回答者の自宅の種類は戸建てが79・2%、マンションが20・8%だった。